

令和7年度 調布市立石原小学校 学校評価報告書（学校長 飯島 慶裕）

学校の教育目標		
○ 根気よく学ぶ子	○ なかよく助け合う子	○ 明るく元気な子
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
だれでも認め合い みんなで育ち合う 笑顔あふれる学校		

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 学級での活動やたて割り班活動などを通して、児童の自己肯定感を高める。	① 授業形態の工夫に加え、児童が自ら考え、表現する場面を意図的に設定するなど、学習意欲の向上を図る。	① 縄跳び, 持久走, 体育の授業やちよこプラ1調布の取組をとおして、日常的な運動を行う。
	② 「考える道徳」「議論する道徳」を行い、えることを意識させ、いじめの防止並びに早期発見・早期解決する。	② 学年・教科担任制を4年生以上で、交換授業を3年生で実施し、児童の学力向上を図る。	② トップスポーツチーム等と連携した体験型出前授業をはじめ、外部スポーツ団体と連携した授業を行い、児童の運動に対する興味・関心を高める。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
自己評価	① 児童アンケート「自分には、よいところがある」の項目で、肯定的な評価は低学年87%, 中学年82%, 高学年81%であった。	① 児童アンケート「学校の勉強は楽しい」の項目で、肯定的な評価は低学年89%, 中学年87%, 高学年71%であった。	① 児童アンケート「運動やスポーツをすることが好きである」の項目で、肯定的な評価は低学年88%, 中学年93%, 高学年77%であった。
	② いじめを発見した場合、ほとんど1か月以内で解決したが、一部継続して見守る事案があった。	② 保護者アンケートによる「基本的な学力を身に付けている」の項目で、肯定的な評価は72%であった。	② 保護者アンケートによる「子供は、すすんで運動をしている」の項目で、肯定的な評価は65%であった。
学校運営協議会評価	・ 以前と比較して、挨拶をしっかりとできる児童は少なくなっている。挨拶運動のときに、児童会で工夫して取り組んでいたが、年間を通して活動しないと効果は上がらない。	・ 学級の様々な要因によって、差が出ている。基礎的・基本的な学力について、継続して定着を図る必要がある。	・ 学校では持久走をはじめ様々な取組を行っているが、一部の児童は地域のスポーツ活動に参加しているが、多くの児童は放課後や休日にすすんで運動に取り組んでいない実態がある。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 地域と連携した教育活動の推進	5 教育機器活用による授業改善	6 特別支援教育の推進
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 地域学校協働本部と連携し、第2学年において、「九九クリニック」を実施し、九九を定着させる。	① SNS等の情報発信のルールや危険性を理解し、安全に情報機器を活用する知識や技能、情報活用能力を身に付けさせる。	① 個別指導計画・支援計画, 就学支援シート等を活用し、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等と連携しながら、個に応じた支援を行う。
	② 地域学習・校外学習・ゲストティーチャーを招いた授業を積極的に行う。	② 児童用タブレットを活用し、児童が主体的に課題解決に取り組む。	② ユニバーサルデザインを踏まえた教室環境の整備を行う。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
自己評価	① 第2学年における九九の定着率は、8割であった。	① アンケート「タブレットの決まりを守っている」の項目で肯定的な評価は、保護者79%, 低学年94%, 中学年95%, 高学年85%であった。	① 児童アンケート「自分には、よいところがある」の項目で、肯定的な評価は低学年86%, 中学年90%, 高学年74%であった。
	② 地域学習・校外学習・ゲストティーチャーを招いた授業を2年生は2回, 3年生は3回, 5年生は1回行った。	② 保護者アンケート「タブレットを積極的に活用している」, 児童アンケート「タブレットを使った学習は楽しい」それぞれの項目に対して肯定的な評価は、保護者で62%, 低学年で92%, 中学年で93%, 高学年で81%であった。	② 教職員アンケートで、4段階評価における平均は3.2であった。

学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した学習は効果があり、児童にとって、地域の良さを再発見する機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校のうちに、SNS等のルールをしっかり学ばせる必要がある。中学校でもトラブルが起こりうることである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの項目「自分には、よいところがある」という断定的な文では、児童はなかなか肯定的に捉えにくい。「～あると思う。」という表現に変えると、もう少し良い結果になると考える。</li> <li>校舎内の汚れが目立つところがあるので、校舎内をきれいにする取り組みを行うとよい。(地域の協力を得て)</li> </ul>
<b>人材育成・組織運営</b>			
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>他校における指導教諭の模範授業を参観した教員は、若手教員のみならずベテラン教諭を含め、延べ18人であった。研修した内容を校内に還元させるのが課題である。</li> <li>教科や学級経営の内容で、若手教員を対象とした校内ミニ研修会を8回行った。若手教員だけではなく、中堅教員の参加も多く、改善意欲が高かった。</li> </ul>		
学校運営協議会評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>若手教員が成長しているのは良いことである。教員を統括するような存在の教員がいると、学校として一つにまとまって課題解決に向かえると考える。</li> <li>地域内に、ICT教育に長けた方がいらっしゃる。ICT教育や情報モラル教育を推進するためには、活用できるのではないかと考える。</li> </ul>		

中期的な経営目標の達成状況																							
<p>1 全教育活動を通して、児童一人一人の人権感覚を高める。(いじめの未然防止 自他の生命の尊重 善悪の判断 自己肯定感を高める)</p> <p>→ 児童アンケートにおいて、肯定的な回答の割合は次の結果となった。(数字：%)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>低学年</th> <th>中学年</th> <th>高学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校では、友達と仲良く生活している</td> <td>94</td> <td>98</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>言葉遣いに気を付けて生活している</td> <td>91</td> <td>91</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>友達や下級生にやさしく接している</td> <td>96</td> <td>98</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>自分には、よいところがある</td> <td>86</td> <td>90</td> <td>74</td> </tr> </tbody> </table> <p>言葉遣いや自己肯定感について、高学年になると下がる傾向がある。言葉遣いの徹底並びにたてわり班や児童会活動で高学年の活躍する場を確保する。</p>				項目	低学年	中学年	高学年	学校では、友達と仲良く生活している	94	98	95	言葉遣いに気を付けて生活している	91	91	74	友達や下級生にやさしく接している	96	98	93	自分には、よいところがある	86	90	74
項目	低学年	中学年	高学年																				
学校では、友達と仲良く生活している	94	98	95																				
言葉遣いに気を付けて生活している	91	91	74																				
友達や下級生にやさしく接している	96	98	93																				
自分には、よいところがある	86	90	74																				
<p>2 児童の学習意欲の向上を図り、基礎的・基本的な学力を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力の向上のために、指導法の工夫改善を行うために、計画的な教育活動を推進する。(ペア学習・学び合い学習等)</p> <p>→ 児童アンケートにおいて、肯定的な回答の割合は次の結果となった。(数字：%)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>低学年</th> <th>中学年</th> <th>高学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校の勉強は楽しい</td> <td>93</td> <td>88</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>授業中、自分の考えを進んで発表している</td> <td>73</td> <td>66</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>家で毎日勉強している</td> <td>85</td> <td>77</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>算数の習熟度別授業は、分かりやすい</td> <td>—</td> <td>91</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table> <p>学年が上がるにつれて、数値が低下している。算数の習熟度別指導では、児童の課題に応じて柔軟にグループ編成を行うとともに、基礎的・基本的な学力の定着を継続して進める。</p>				項目	低学年	中学年	高学年	学校の勉強は楽しい	93	88	69	授業中、自分の考えを進んで発表している	73	66	52	家で毎日勉強している	85	77	70	算数の習熟度別授業は、分かりやすい	—	91	79
項目	低学年	中学年	高学年																				
学校の勉強は楽しい	93	88	69																				
授業中、自分の考えを進んで発表している	73	66	52																				
家で毎日勉強している	85	77	70																				
算数の習熟度別授業は、分かりやすい	—	91	79																				
<p>3 児童自ら健康で安全に生活する力を育むために、学校・家庭・地域が連携して、交通事故、熱中症、防災(地震、風水害)、不審者等に対する体制を推進する。</p> <p>→ 今年度、交通事故による児童の大きなけがはなかった。避難訓練では、水害を想定した垂直避難訓練を1回、不審者対応訓練を2回行うことで、児童の安全に対する意識は高まった。</p>																							
<p>4 ICT機器を積極的に活用した授業改善を行うとともに、情報モラル教育を推進する。</p> <p>→ 「GIGAワークブックとうきょう」を活用し、情報モラルの意識を高め、SNS等の情報発信のルールや危険性を理解し、「タブレット活用のルールを守って使っている」の項目を100%にする。</p>																							
<p>5 関係諸機関と連携しながら、児童一人一人の課題に柔軟に対応し、育成を図る。</p> <p>→ 多摩児童相談所、子ども家庭センター「すこやか」、児童福祉施設六踏園と情報共有・連携し、保護者や児童を支えながら様々な課題に対応している。</p>																							
<p>6 コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会で話し合い、地域学校協働本部を活用し、地域・保護者・学校の三者が一体となって、地域に根差した教育活動を推進する。</p> <p>→ 学校運営協議会と教員、児童とのつながりを深める取組を行っている。今年度は、2年生で2回、3年生で3回、5年生で1回地域の方々の協力を得た教育活動を行った。また、九九(2年生)、理科の実験(4年生)、ミシン(5、6年生)の活動で、サポートしていただいた。</p>																							
<p>人・組 ・サービス規律の徹底 ・ライフ・ワークバランスの推進</p> <p>→ 学期末や行事前に、1日の勤務時間が長くなる傾向がある。</p>																							

次年度の重点課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して、全教育活動を通して児童の人権意識を高める必要がある。</li> <li>特別活動を充実させながら、児童の自己肯定感を高める必要がある。</li> <li>基礎的・基本的な学力のうち、特に九九の定着を継続して行っていく必要がある。</li> <li>学校運営協議会において協議し、地域学校協働本部と連携を図って地域学習を継続・拡充し、児童の主体性を育てていく必要がある。</li> <li>中・高学年において教科担任制を導入し、教員の専門性向上を図るとともに、多面的な児童理解につなげる必要がある。</li> <li>コミュニケーションの基本となる挨拶について、自ら進んで挨拶できるよう学校・地域で継続して取り組む必要がある。</li> <li>児童用タブレット端末の活用方法並びに情報モラルの啓発について、継続して児童・保護者へ周知・徹底していく必要がある。また、定期的な情報モラル教育を行う必要がある。</li> </ul>